



リハ科の職員による院内研修会を開催

医療の世界は日進月歩です。以前は常識だったことが実は間違っていたということもあります。そのため、私たち医療職は、日々、新しい知識や技術を更新していく必要があります。

私たち、リハビリテーション科では定期的に科内で勉強会を行っています。今回のテーマである「誤嚥性肺炎患者における早期経口摂取に期待できること」という内容は、看護師を含めた多職種と共有すべき内容と考え、院内研修会を開催しました。理由として、当院では誤嚥性肺炎で入院した場合は禁食となり、食事再開に難航するという事例が多かったからです。

以下は研修会の様子です。



研修会はトロミ茶の試飲から開始しました。口腔内を乾燥させた状態での試飲も行い、患者さんの気持ちを理解したうえで、興味を持って研修会に臨んでいただけました。参加者はリハ職だけではなく、看護師（外来や病棟含めた）や管理栄養士の方にも来ていただけました。

研修会に参加し、「口腔ケアの大切さを改めて学んだ」という意見や「長期に経口摂取をしないことで認知症が進行するとは知らなかった」、「長期に食べないことで唾液量が減り、口腔環境が悪化するということがあった」などの声が上がりました。

アンケートの中で、「口腔ケアは看護師全員で取り組む必要がある」、「安全に嚥下ができる環境をチームで話し合いながら、整えていくことが大切だ」など、今後の課題も挙げられていました。

参加者は19名と少なかったのが残念ではありますが、チーム医療の礎に少しでも貢献できているとよいと思います。



リハ科では今後も、日々、最新の知識や技術を獲得するべく、勉強会を開催していきます。その中で、他職種とも共有し、患者さんに還元できる内容は院内研修会を通して情報を発信していきたいと思えます。



■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。
主治医にご相談ください。

▶ 施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
運動器リハビリテーション料Ⅰ
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法



病院リハ部門 主任
丸山あすみ 松下知史

心臓リハ部門 主任
津久井亮

■ 通所リハビリテーション関越中央

1~2時間の短時間通所リハ、6~7時間の長時間
通所リハを行っております。
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様
に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、
心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用
頂けます。



介護リハ部門 主任
狩野和子 田口裕一

空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00~10:15	△	△	△	△	△
短時間型通所リハ 2クール 10:30~11:45	△	○	○	△	△
長時間型通所リハ 9:00~15:15	△	△	△	△	△
訪問リハビリ 13:00~17:00	△	○	△	△	△

○：受け入れ可能 △：要相談 ×：受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115 (代) FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

ひとことコラム 第 62 回

「排痰能力と最長発声持続時間の関係について」

咳嗽は気道内分泌物や異物を除去する生体防御機構であり、肺炎などの呼吸器感染症の予防のために重要な役割を担っています。高齢者では口腔内・咽頭に分布している神経が加齢に伴いその数が減少し、機能低下から潜在的に咳嗽機能が低下しています。

自己排痰可能な方と不可能な方で、最長発声時間を比較した研究がありました。研究はリラックスした姿勢で、なるべく長く「あー」を持続発声し、発声した時間を計測するというものでした。結果として、自己排痰可能な方と不可能な方では有意な差がみられ、発声時間が3秒未満の方は自己排痰困難で嚥下機能低下がみられる方が多いとのことでした。

つまり、発声練習は、健康に安全にご飯を食べるために有用だということですね！

